

千葉県立博物館評価に係る有識者意見交換会 自己評価票(案)

達成度(数値達成度のめやす)		自己評価	総合評価
達成	目標値≥100%	4	A
ほぼ達成	目標値≥80%	3	B
やや不十分	目標値≥50%	2	C
不十分	目標値<50%	1	D

満足度欄の達成度		自己評価
達成	達成値≥75%	4
ほぼ達成	達成値≥65%	3
やや不十分	達成値≥50%	2
不十分	達成値<50%	1

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考		
			上段:達成値(H27)	下段:目標値(H27)]	値の説明				数値	
I	収蔵資料の整理・保存有効活用・調査研究	収蔵資料	1	資料のデジタル化数	今年度実績	2551件	4	B		
					館設定の目標	2551件				
		2	収蔵資料の受入	今年度実績	1点	2				
				館設定の目標	2点					
		収蔵資料の有効活用	3	館外貸出(外部機関等展示等)	今年度実績	件	1			
					昨年度実績	2件				
			4	館内利用(学術調査等)	今年度実績	3件	4			
					昨年度実績	3件				
		5	著作物資料への利用(出版物掲載等)	今年度実績	1件	4				
				昨年度実績	1件					
		調査研究	6	調査事案件数	件数	今年度実績	6件			4
						昨年度実績	6件			
7	共同調査事案件数		件数	今年度実績	0人	1				
				館設定の目標	1件					
8	研究成果の公開状況		論文研究報告	今年度実績	6件	4				
				昨年度実績	6件					
大項目 I の総合評価(A~D)							B			
博物館コメント	本館の収蔵資料が他館で利用するケースは非常に少ないが、収蔵庫に関しては温・湿度記録を定期的にチェックし管理を徹底し、保管に努める。 研究報告においては、報告書の作成・配布などを積極的に行い、研究過程をHP等で公開するとともに、その結果を館の展示に生かしていきたい。本館の資料を利用した学術交流をさらに進めていきたい。									
有識者コメント	【加藤】「資料のデジタル化数」の目標達成は高く評価できる。この成果をホームページの充実に繋げ、資料の公開とともに、アクセス数の向上に向けてさらにご努力願いたい。 【黒田】館内資料のデジタル化について、その後データをどのような形で公開するか、館内外での資料活用にどのように役立てることができるか、それらの方向性も見据えつつ今後も続けてほしい。									

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考
			上段:達成値(H27) 下段:目標値(H27)]		値の説明	数値			
II	入館者数と来館者の満足度	展示の充実	1	博物館	入館者数	今年度実績	152887人	2	B
						昨年度実績	195808人		
			2	企画展(事業名) (最先端ネットワークのかたち)	入館者数	今年度実績	7264人	2	
						館設定の目標	10000人		
		3	企画展(事業名) (プラネタリウム)	入館者数	今年度実績	15766人	2		
					館設定の目標	20000人			
		4	企画展(事業名) (房州鎌-飛雀印鑑の100年-)	入館者数	今年度実績	11593人	4		
					昨年度実績	0人			
		5	常設展示	更新回数	今年度実績	2回	4		
					昨年度実績	1回			
					6	企画展(事業名) (最先端ネットワークのかたち)		実施回数	
昨年度実績	1回								
7	企画展(事業名) (房州鎌-飛雀印鑑の100年-)	実施回数	今年度実績	26回	4				
			昨年度実績	10回					
8	博物館	アンケート満足度 「とても良かった」 +「良かった」の割合	今年度実績			A	館全体では未実施		
			9	今年度実績	95%			4	
			10	今年度実績	96%			4	
			11	今年度実績	94%			4	
大項目IIの総合評価(A~D)							A		
博物館コメント	展示・運営協力会やそれ以外の企業などへの調査活動・展示資料の提供依頼などを計画的に進めていく。展示場の大型装置の修繕点検結果による合理的な保守計画・維持計画を作成し予算化に努める。								
有識者コメント	【加藤】房総のむらとの企画展のコラボレーションは入場者も多く、高く評価できる。県土は広く、今回の成果を活かして今後とも他館とのコラボレーションを積極的に進め、他館の範となっていたきたい。平成26年度と比較して、入館者数が大きく異なっている。館にとっての最適値を把握する必要がある。 【黒田】県内博物館との積極的な協力体制と、企業との協力体制を組織として今後もしっかりと継続してほしい。入館者の微減について、その要因を分析し、今後の企画展計画や広報体制にぜひ活かしてほしい。								
III	財源の確保	1	入場料収入	達成率	今年度実績	63%	2	C	
					館設定の目標	100%			
		2	外部資金の獲得	件数	今年度実績	0件	1		
					昨年度実績	1件			
大項目IIIの総合評価(A~D)							C		
博物館コメント	調査研究について単年度事業が多い状況だが、外部助成による購入費用の獲得を進めるため、年度を越えた長期の調査研究実施する。								
有識者コメント	【加藤】外部資金の獲得は、事業体の外部的評価を現わす基準でもあることから、引き続きご努力を願いたい。 【黒田】職員配置等で長期の調査研究計画が立て難いかもしれないが、長期間の研究は多くの成果を生む良い契機となると思うので、チームでひとつの研究テーマを設定するなど研究体制の組織のあり方も検討しつつ外部助成獲得の努力を継続してほしい。								

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考
			上段:達成値(H27) 下段:目標値(H27)]		値の説明	数値			
IV	広報活動の積極的な展開	広報情報発信	1	HP等の情報発信	アップ数	今年度実績	169回	4	B
					アップ数	昨年度実績	166回		
			2	HPでの利用状況	アクセス数	今年度実績	118905件	2	
					アクセス数	昨年度実績	189367件		
			3	報道機関への情報発信	取材件数	今年度実績	41件	4	
						館設定の目標	40件		
大項目Ⅲの総合評価(A~D)							B		
博物館コメント	HP等の情報発信は、トピックやイベント情報を中心に、今後も重視し展開していく。								
有識者コメント	【加藤】報道機関への情報発信力は高く評価できる。HPのアップ数が若干伸びたにも関わらず、アクセス数が落ち込んだ理由の分析を行い、情報発信コンテンツのあり方をご検討願いたい。 【黒田】アクセス減の原因究明はぜひ行ってほしい。								
V	学校及び地域(関係団体)との連携・協働	学校との連携	1	学校利用受入	学校数	今年度実績	141校	4	A
					学校数	昨年度実績	150校		
			2		入館者数	今年度実績	10069人	4	
					入館者数	館設定の目標	10000人		
			3	生徒・児童	入館者数	今年度実績	32152人	4	
		入館者数				昨年度実績	35248人		
		4	博学連携(幼小中高への出前講座等)	学校数	今年度実績	23校	4		
				学校数	館設定の目標	20校			
		5		利用者数	今年度実績	1531人	4		
				利用者数	昨年度実績	908人			
地域関係団体との連携	6		団体数	今年度実績	20団体	4			
			団体数	昨年度実績	20団体				
	7	連携・共催(大学、NPO等)	利用回数	今年度実績	51回	3			
			利用回数	昨年度実績	52回				
	8		利用者数	今年度実績	17411人	4			
利用者数			昨年度実績	17107人					
9	友の会活動	利用人数	今年度実績	人	/	※友の会組織なし(H28より再結成)			
友の会活動	利用人数	人							
10	ボランティア活動	活動延人数	今年度実績	366人	3				
			活動延人数	館設定の目標		400人			
大項目Ⅳの総合評価(A~D)							A		
博物館コメント	広報については、地元小学校を中心に計画的なチラシ配布、教職員への案内を実施した。								
有識者コメント	【加藤】ほぼ目標値や昨年実績値に達し、上回ったことは評価できる。今後共、専門知識を持つ地域の人材を発掘され、ボランティア活動の活性化による館活動充実の努められることを願いたい。団体受付で、「雨のみ」利用客等の前後のコースを把握する等、利用団体の動向を調べることで、来館者増につなげてほしい。 【黒田】計画的な広報が実際にこの数字に反映されているのかは判断できないが、目標値に近い実績を生み出すことができたことはとても素晴らしい結果だと思う。友の会の再開について、今後どのように積極的に活用してゆかが楽しみである。								

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考	
			上段:達成値(H27) 下段:目標値(H27)]		値の説明	数値				
VI	教育・普及活動	来館状況	1	クリスマス実験講座	参加者数	今年度実績 66人 館設定の目標 70人	3	B		
			2	展示運営協力会講演会	参加者数	今年度実績 124人 館設定の目標 100人	4			
			3	夢チャレンジ体験スクール	参加者数	今年度実績 95人 館設定の目標 100人	3			
			4	ふっせんスライムをつくろう	参加者数	今年度実績 212人 館設定の目標 270人	2			
			5	化石のレプリカをつくろう	参加者数	今年度実績 554人 館設定の目標 217人	4			
			6	スノードームを作ろう	参加者数	今年度実績 141人 館設定の目標 120人	4			
			7	たんけん科学館	参加者数	今年度実績 633人 昨年度実績 687人	3			
			8	展示解説ツアー	参加者数	今年度実績 599人 昨年度実績 1404人	1			
		総合的な満足度	9	クリスマス実験講座	満足度「とても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績	83%	4	A	
			10	展示運営協力会講演会		今年度実績	95%	4		
			11	夢チャレンジ体験スクール		今年度実績	100%	4		
			12	ふっせんスライムをつくろう	満足度「とても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績	100%	4		
			13	化石のレプリカをつくろう		今年度実績	100%	4		
			14	スノードームを作ろう		今年度実績	100%	4		
			15	たんけん科学館	満足度「とても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績	80%	4		
		16	展示解説ツアー	今年度実績	80%	4				
		利用状況	17	相談件数 (来館、メール、電話等)	利用件数	今年度実績 587件 館の目標 550件	4	A		
大項目Vの総合評価(A~D)							B			
博物館コメント	地元(都内を含む)への計画的なチラシ配布により、家族連れでの参加が増加していると考えられる。講座のみの参加についても、有料入館につながっている。子供向けの工作教室について、内容の精査・向上を続けたい。									
有識者コメント	【加藤】教育・普及活動への評価が高いことから、展示運営協力会やボランティアの支援を得て講座数を拡大し、館及び企画展入場者の確保に努めていただきたい。 【黒田】来館者状況が不十分、ほぼ不十分の評価となった講座や教室については、その要因分析と事業の中身の検証をぜひ行って今後活かしてほしい。									
VII	人材育成と安全管理	実習研修	1	博物館実習	今年度実績 9人 過年度実績 10人	3	A			
			2	教員等の研修	今年度実績 269人 過年度実績 163人	4				
			3	職場体験	今年度実績 57人 過年度実績 31人	4				
			4	インターシップ	今年度実績 6人 過年度実績 1人	4				
		安全管理	5	研修会の開催	実施回数	今年度実績 回 回	4	A	実施なし	
			6	防災訓練実施等	実施回数	今年度実績 2回 昨年度実績 2回				
大項目VIIの総合評価(A~D)							A			
博物館コメント	各実習、研修については今後も可能な限り受け入れていきたい。									
有識者コメント	【加藤】教員等の研修、職場体験、インターシップともに過年度実績値を大幅に上回ったことは、高く評価できる。 【黒田】実習研修の受け入れ態勢を万全とすることは、多くの労苦が伴うことは想像に難くないが、今回の実績は県民に求められている結果であると感じる。受け入れ時の危機管理体制の確保や、指導内容の質向上と均質化も継続して行ってほしい。									

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考		
			上段:達成値(H27)	下段:目標値(H27)]	値の説明				数値	
Ⅷ	観光資源としての活用	観光連携	1	県外来館団体入込	今年度実績	80団体	4	B	事前予約の場合のみ把握可	
					館の目標	50団体				
			2		今年度実績	3799人	4			
					館の目標	3000人				
			3	外国人来館入込	今年度実績	2団体	1			事前予約の場合のみ把握可
					館の目標	5団体				
			4		今年度実績	30人	1			
					館の目標	250人				
大項目Ⅷの総合評価(A~D)						B				
博物館コメント	小学校の団体旅行(遠足・社会見学等)を扱う旅行会社等へのPRを強化しており、県外からの団体も多く来館している。外国人については、団体以外の把握は困難である。									
有識者コメント	【加藤】旅行会社等へのPR強化の成果が現れていて、館の積極姿勢は高く評価できる。 【黒田】外国人観光客について、実際の入館者は実績値より多いことも想像できるが、外国人向けの広報体制も検討し目標値達成への努力を継続してほしい。									
総合評価(A~D) [各達成度の平均]						A				
総合評価と次年度への対策	前年度企画展(プラネタリウム)の入場者が大きくのびたため、HPのアクセス数等が増加した。今年度はおおむね例年に近い数値に落ち着いたと考えられ、この数値を基準に館の適正数値を把握していく必要がある。									

【博物館評価に係る有識者意見】

評価項目全体に係る意見	【加藤】 資料のデジタル化、他館とのコラボレーション、旅行会社等への積極的なアプローチなどの姿勢は評価できる。今後とも、展示運営協力会、大学の連携を強め、さらに専門知識を有するボランティアなどの発掘に努められ、地域の知恵や人材を活かした活動を充実されるよう望む。
	【黒田】 小項目で低く評価した点を中心に、要因分析と改善方法の模索を継続して行ってほしい。

【博物館記入】

意見への対応	H26からH27のホームページのアクセス数の減少は、H26にプラネタリウムの入場者数が非常に多く、この時期のアクセスが多く、H27は例年のアクセス数に落ち着いたものと考えられる。今後、情報更新を着実に実施することで、一度アクセスしたお客さんを継続してHPに誘致できるようにしたい。次年度の特別展に向けて、入館者のニーズ把握、情報発信につとめる。団体の滞在希望時間が短くなっているなどの実情が認められるが、受付、事前視察に際し、展示解説等見学コースの紹介を積極的に実施し、単に受け入れだけでなく児童・生徒に魅力のある経験を残せるよう努めたい。引き続き土日を中心に、イベントを計画することで、新規に来館するきっかけをつくること、再来館するきっかけを作ることができるよう努めたい。
--------	---